

巻頭言

2011年3月12日 午前3時59分 発生 長野県北部を震源とする地震による被害と対応

長野県栄村 村長
島田茂樹

はじめに

栄村は、長野県77市町村の最北端に位置し、村界は新潟県津南町、十日町市、湯沢町、上越市および群馬県中之条町並びに長野県飯山市、野沢温泉村、木島平村、山ノ内町に接している村で、東西19.1km、南北33.7km、周囲106.0km、面積は271.51km²の広大な村です。地形は複雑で千曲川の最下流に位置し標高は長野県で一番低い256mから日本百名山の苗場山(2,145m)鳥甲山(2,037m)佐武流山(2,191m)など2,000m級の山々が聳え、高低差の激しい中、千曲川、志久見川、中津川等の大小河川が環流している。豪雪地として知られている本村は、昭和20年2月、7m85cmの積雪が記録されており、過去67年間の最高積雪の平均は313cmとなっている。人口は平成24年5月現在2,233人、世帯数902世帯(村内の特別養護老人ホーム施設への入所者77世帯を含む)が、31の集落に点在している。高齢化が進み半数の集落は65歳以上が50%以上を占めている過疎・豪雪の村です。

産業は農業が主であるが、地形的に恵まれていないため耕地は狭小で生産性は低い。従って専業農家は少なく水稻を中心の第二種兼業農家が多い。

長野県北部地震の被害状況

東北大震災の翌日、残雪が2メートル近く残っていた3月12日未明の3時59分、栄村と新潟県津南町の県境付近を震源とするマグニチュード6.7、震度6強の地震が栄村を直撃した。村長以下職員も道路事情等で早急に登庁できず、ようやく午前6時に災害対策本部を役場に設置した。その後も6弱2回、5弱2回の大きな揺れと余震もひっきりなしにあり、危険を感じたので秋山地区を除いた村民全員の避難を決定し、消防団員の応援を得て避難所7箇所に分散して避難を実施した。

秋山地区は役場から30km離れている5集落の総称で、ほとんど被害がなく避難の必要

がなかったが、その他の地区25集落は水道施設が全て被災し使用不可能となったため、役場、小・中学校、公民館、特養施設等の避難所7箇所へ緊急避難をし、最大1,787名（収容延べ人員22,622人）が避難指示解除までの10日間を劣悪な条件での避難生活を余儀なくされました。

この間、消防団、消防署、警察署の皆さんには徹夜で各集落の警戒に当たっていただきました。また、役場職員も男女を問わず全員が庁舎で、或いは避難所で村民と寝食を共にし、不眠不休で被災者の支援にあたり、更に長野県、姉妹都市の東京都武蔵村山市、近隣市町村など各方面から消防団応援、給水車対応、保健師派遣等のご支援をいただき、またボランティアの大勢の皆さんからもご協力をいただきました。地震発生時の犠牲者はなかったが、避難生活中に体調をくずされて3名のお年寄りの方が病院でお亡くなりになり地震関連死となりました。

被害状況

道路の亀裂・崩落は、国道5路線47箇所（うち橋梁7箇所）、村道71路線167箇所（うち橋梁3箇所）。田・畑作付け不能853箇所、農道・水路284箇所、その他福祉施設、上下水道、観光施設、教育施設、消防施設、村営住宅、役場庁舎等合わせて被害額は54億円余となっています。住家の全壊33棟、半壊169棟、一部損壊486棟、合計688棟。非住家全壊156棟、半壊134棟で村内被災地区の世帯740世帯（秋山地区を除く）の93%に何らかの被害がありました。全壊、半壊等の住宅困窮者のために長野県が3億円余で応急仮設住宅55棟を建築、希望者全員が入居し最後に残った避難所を閉鎖できたのは、地震発生から100日目の6月19日でした。

復旧状況

JR東日本飯山線の線路が180m道床崩壊、戸狩野沢温泉駅と十日町駅間が運休となり、バスによる代行運送を行ったが、4月29日全線復旧した。

長野市と新潟市を最短距離で結ぶ国道117号は、橋梁2箇所の橋脚の亀裂、路面の陥没等で通行止めとなり、3月24日解除となったが、大型車輛は6月末まで通行不能で村内に迂回路が無く観光バス、定期便等の通行ができなかったため近隣を含めた観光地には影響があった。県道4路線中、2路線は積雪のため工事中止で、1路線は平成24年6月現在も復旧工事中のため通行が出来ないが迂回路がある。

復興に向けて

地震前の村に復興できるよう本年10月を目途に「栄村震災復興計画」を策定中です。計

画の基本は、「村民の暮らしの早期再建」「災害に強い安全で安心な村づくり」「災害をきっかけとした活力のある村づくり」「中山間地域の新たな復興モデルの創造」を掲げて、村民が安心して栄村に暮らし続けられるように、被災された方の一日も早い生活再建・地域コミュニティの維持を最優先に、災害村営住宅30戸を被災者の希望に沿って、今まで住んでいた集落に建設中です。

現在の仮設住宅等から今年の降雪前の入居を予定しています。

おわりに

全国各地から心温まる支援物資や、12,700件余の個人、企業の皆さんからの義援金、大勢の皆様によるボランティア活動など被災者支援や復旧活動へのご支援をいただきましたことに対し心から感謝を申し上げます。過疎と豪雪の小さな村ですが、元気を取り戻し、活力と魅力あふれる村づくりを目指して頑張っています。今後ともよろしくご支援のほどお願いを申し上げます。

